

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【公開番号】特開2001-352440(P2001-352440A)

【公開日】平成13年12月21日(2001.12.21)

【出願番号】特願2000-169878(P2000-169878)

【国際特許分類】

<i>H 04 N</i>	<i>1/387</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>G 06 T</i>	<i>3/00</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 04 N</i>	<i>5/232</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 04 N</i>	<i>1/60</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 04 N</i>	<i>1/40</i>	<i>(2006.01)</i>

【F I】

<i>H 04 N</i>	<i>1/387</i>	
<i>G 06 T</i>	<i>3/00</i>	<i>4 0 0 Z</i>
<i>H 04 N</i>	<i>5/232</i>	<i>A</i>
<i>H 04 N</i>	<i>1/40</i>	<i>D</i>
<i>H 04 N</i>	<i>1/40</i>	<i>F</i>

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月1日(2007.6.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

請求項3に係る発明は、請求項1に係る画像処理装置において、前記判別手段は、前記特徴量の信頼度を評価する信頼度評価手段を有し、該信頼度評価手段の評価に応じて同一被写体が否かの判断に用いる前記特徴量の優先度を決定するように構成されていることを特徴とするものであり、また請求項4に係る発明は、請求項2に係る画像処理装置において、前記判別手段は、前記特徴量の信頼度を評価する信頼度評価手段を有し、該信頼度評価手段の評価に応じて同一被写体か否かの判断に用いる前記特徴量の優先度を決定するように構成されていることを特徴とするものである。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0078

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0078】

S12：画素集合B上で前景に属する確率の最も高かった画素maxpを前景候補領域に追加する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0102

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0102】

また請求項11に係る発明によれば、合焦位置をずらして連写を行い、焦点位置の異なる

連写画像から距離推定値を得るようにしているので、簡便な方法でエッジ部分の距離推定が可能となり、ストロボ利用の場合と異なり照射むら等の影響を受けないようにすることができる。また請求項12に係る発明によれば、2つの重複する画像領域に対し、重複領域とその他の領域とで輝度及び距離推定値の変化が連続的であり、且つ色相及び彩度の変化量が所定の閾値内にある場合に限り、2つの画像領域を同一被写体に属すると判断するように構成されているので、同一被写体中の同一素材の2つの画像領域を別の被写体に属すると判断する可能性を低くすることができる。また請求項13に係る発明によれば、距離判別手段により互いに同一被写体に属すると判断された画素からなる連結領域を基本領域として生成し、連結領域の輪郭上の複数個の画素と同一の被写体に属すると判断された画素を抽出して基本領域に追加して領域を拡張し、高精度の判断に基づいて拡張して行くようになっているので、距離情報にエラーが含まれ基本領域の輪郭が被写体の輪郭と一致しない場合に対処でき、しかも基本領域の多くの輪郭画素と同一被写体と判断された外部画素のみを用いて拡張して行くようになっているので、被写体の輪郭をはみ出して拡張が起こる危険性を緩和することができる。